

## 「夜景サミット 2016 in ベトナム」参加報告書

長崎市議会議員 中村 俊介

今回は夜景サミット参加以外に JETRO(日本貿易振興機構)ホーチミン事務所、並びに現地学校法人 ESUHAI(エスハイ)を視察。

JETRO においてはベトナムの歴史・概要、物流網・大型インフラ案件、マクロ経済、外国直接投資、市場動向など、過去から現在に至る日系企業や日本の立場に立っての観点から説明を受け質疑応答をおこないました。

ESUHAI においては「日本のものづくりの活性化とベトナムの工業化を共に目指す」ことを目的とし、昨今、我が国が抱える企業のグローバル展開の必要性と少子高齢化・人材不足という課題に対し、ベトナムの優秀な人材を戦力として提供することをソリューションとし、重ねて日本の産業力の維持・発展への貢献と日本の技術・ノウハウを学び工業国家への転換と高度経済発展へつなげる構想の説明、及び現地において人材育成の現場を視察いたしました。

長崎市には 2002 年に設立され 2008 年に NPO 法人、2015 年に認定 NPO 法人格を取得した長崎ベトナム友好協会の事務局が所在し、友好親善、経済、文化、科学技術の交流が行政機関や一部民間企業の間でおこなわれておりますが、まだまだその認知度は低い印象です。JETRO や JICA の情報や協力を得ながら優秀な外国人技術者や労働者の受け入れ環境の整備、また県下地場企業のベトナム進出の支援を引き続きおこないつつ、長崎市においてはグローバルな視点での新たな定住・交流人口の創出につなげる糸口になるのではないかと考える。ただ、注意すべき課題として“地元の人材の雇用を圧迫しない”、“企業独自の技術や情報を流出させない”ための方策は必ず必要であると考えます。

夜景サミットについては、多くの夜景を主軸とする、もしくは力を入れている日本の自治体関係者や民間企業関係者が参加しベトナムの観光協会、観光業やマスコミ関係者へプレゼンテーションをおこない、その後は商談会が開催された。

プレゼンにおいては各都市、地の利を利活用したもの、エンターテインメント性を重視した人工的なものと三者三様であった。長崎市の夜景も世界三大夜景に選定されている大きな特徴は「地形を活かした生活の光」が大きな要素であると理解しているが、陸と海岸の境界をより目立たせる工夫もされている。新たなアイデアとしてエンターテインメント性の高いものが提案されているが、今後の課題として異なる二つの要素のバランスをどう融合させていくかということ。人口減により“すり鉢”の長崎市の夜景の光は高台から減少を続けている。ランドマーク的な建造物のライトアップは有効な手段だとは思いますが、減った分を補う方策が必要になる以上、函館市の様に行政が予算を組み中長期的に“増やす努力”をすることも選択肢に加えなければいけないのだろうか。